

大阪市立弘済院における取り組み

—高齢社会と認知症—

中 西 亜 紀

大阪市立弘済院附属病院 神経内科・精神神経科部長

大阪市健康福祉局健康推進部医務主幹

はじめに

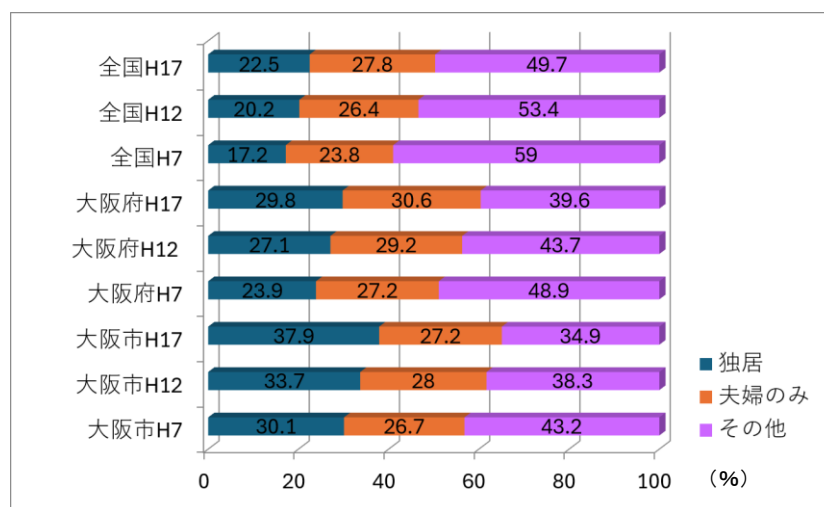
近年、「認知症」に関する話題がしばしばマスコミに大きく取り上げられるようになった。新聞、雑誌、TV と言わず特集を組まれることが珍しくなく、しばしば随所で講演会や研修会が開催されている。これほど問題提起されるようになったことは、高齢社会の到来とともに認知症患者が増えたことが最大の要因ではあるが、認知症介護の困難性やそれにまつわる悲劇に示されるように、この病は単に「もの忘れする病」では決してなく、この疾病の本質が“進行する社会性の障害” 一つまり、社会生活ひいては身の生活の自立して営めなくなっていくこと、人と人とのコミュニケーションが困難になっていくこと—にあることに起因する。

1. 認知症を取り巻く社会的状況

全国の認知症高齢者数は、平成 17 年（2005 年）に約 169 万人と推計されていたが、平成 27 年（2015 年）には約 250 万人、平成 37 年（2025 年）には約 323 万人になると推計されている（H21～23 年度 大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画より）。

大阪市は平成 22 年 9 月 1 日現在、人口 2,668,113 人（男性 1,301,694 人、女性 1,366,419 人）で、そのうち高齢者人口 606,000 人、高齢化率は 23.0%の都市である。介護保険第 1 号被保険者のうち、何らかの介護・支援を必要とする認知症高齢者（要介護認定において「認知症高齢者の日常生活自立度」がⅡ以上）は 49,771 人で、平成 16 年の 34,916 人と比較すると 5 年間で約 40%の増加をみていることになる。しかしながらこの数字には、日常生活自立度Ⅱ未満の認知症高齢者や介護保険未利用者、さらには医療機関を受診していない者等が含まれていないため、実際にはさらに多くの認知症高齢者が生活していると推測される。

図 1. 65 歳以上の人がいる世帯の状況の推移（大阪府、大阪市統計より）



また、大阪市の特徴として特記すべきことは、独居高齢者世帯が非常に多いことである。高齢者世帯に占める独居高齢者世帯は年々増加傾向で、その比率は政令指定都市で全国1位であり、独居もしくは高齢者のみ世帯が65.1%を占める状況である（図1.（H17年度国勢調査））。先に述べたように、認知症という疾患の本質は“進行する社会性の障害”であり、一人で生活できなくなることを意味することから考えると、高齢者人口そのものが増加する中、大阪市における認知症対策は緊急の課題であるといえよう。

2. 大阪市立弘済院の概要

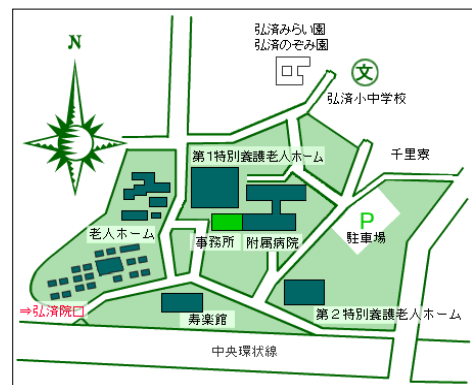
（1）弘済院の沿革

「弘済院」は、その前身を「財団法人弘済会（※）」といい、明治42年に大阪市北区で発生した大火の際の御下賜金と市民等からの義捐金の残額を基金として、大阪府知事、大阪市長及び大阪朝日（現在の朝日新聞）・大阪毎日（現在の毎日新聞）の両新聞社社長が発起人となり、大正元年8月に設立された。

弘済会は、大阪慈恵病院やその他の事業を継承して、現在の大阪市生野区生野東を中心に、市内各所で授産、養老、育児、病院などの事業を総合的に進めた後、要介護者の激増などにより施設を拡充する必要性が生じたため、昭和9年に大阪府三島郡山田村（現在の吹田市古江台）に山田事業所を設置し、在来の事業所とともに大阪市の救済事業に重要な役割を果たしてきた。

昭和19年4月に大阪市が「財団法人大阪市弘済会」（昭和16年に改称）からこれらの事業を引き継ぎ、「大阪市立弘済院」として運営を開始した。戦後、生活保護法や老人福祉法などの施行や時代の要請により、逐次整備を進めたが、千里ニュータウンの開発（昭和36年着工）と大阪万国博覧会の開催（昭和45年）を契機に、施設周辺が画期的な変貌を遂げ、本院もこれと並行して建物の改築整備などによる近代化を図った。

さらに、近年のわが国の急激な高齢化に伴い、平成2年に認知症専用棟として第2特別養護老人ホームを開設し、また、平成17年4月に第1特別養護老人ホームの建替えを行い、増大する認知症高齢者をはじめとする高齢者の福祉・医療の市民ニーズに応えるべく施設の充実に努めてきた。



（2）弘済院各施設概要

<大阪市立弘済院附属病院>

大阪市立弘済院附属病院の前身は大阪慈恵病院であり、明治21年2月、当時大阪市内に経済的な理由から病院にかかれない人達のための施設がないのを憂えた医学界の先覚者、緒方惟準、緒方拙斎、高橋正純、高橋正直、山田俊郷など、有志の人びとにより設立され、まず同年6月、東区唐物町（現大阪市中央区南本町）1丁目円光寺内に仮病院を開設、ついで11月に東区北久太郎町（現大阪市中央区久太郎町）の元浪速尋常小学校跡を購入、これを改築して12月に開院された。さらに、明治27年1月、東区（現大阪市中央区）粉川町に転じ、建物設備を整備し漸次事業を拡張、明治時代における最多の経済的理由から病院にかかれなかった人達の治療機関として業績をあげた。

明治42年7月、1万戸余りを焼失させた「北区大火」の後、大阪府知事、大阪市長、朝日新聞社長、毎日新聞社長の4名を発起人として、明治44年8月財団法人弘済会が設立された。弘済会の発足により、大阪慈恵病院は弘済会と合体することになり、大正2年5月その名称を弘済会救療部大阪慈恵病院と改め、昭和9年、弘済会山田事業所開設と同時に事業の主体を同事業所に置いた。

昭和 19 年 4 月、国及び地方公共団体を主体とする社会事業体制の確立を理由に、弘済会のすべての事業を大阪市が継承し、大阪市立弘済院が誕生した。

現在の附属病院は、弘済院再建整備計画の一環として、昭和 43 年に建設（昭和 46 年増設）されたものである。入院患者は、終戦後まもなくは大阪市内の戦災負傷者および住む家をなくした病弱者が大多数を占めていたが、現在は、大阪市を中心とする高齢者医療の基幹的な専門病院として特に認知症を中心的課題として取り組んできている。



上記のような長い歴史のもと、平成 20 年には全国社会福祉協議会より特別表彰を受け、市制 120 年の平成 21 年には創立 120 周年を迎え、大阪市立大学大学院医学研究科とともに認知症をテーマに市制 120 周年記念ジョイントセミナーを開催した。

＜第 1 特別養護老人ホーム＞

昭和 41 年の弘済院再編整備計画による附属病院の建て替えに伴い創設されたもので、創設当時は、利用者の多数が介護面だけでなく看護も必要としたため、医療ケアを中心とした介護福祉職員と看護師の共同作業による運営を行っていた。しかし、利用者の高齢化に伴い昭和 47 年 11 月から介護を中心とした生活の場であるホームへと運営方向が転換された。昭和 56 年から 58 年にかけて、居室の改造（36 人部屋から 6 人部屋へ）を行い、より生活しやすい快適なホームをめざし利用者の処遇の改善を図った。

平成 10 年、ショートステイ事業を新たに開始し、平成 17 年 4 月には建替えを行い、多様なケアニーズにこたえるべく、認知症ケアの充実や地域との連携強化を課題に取り組んできている。

＜第 2 特別養護老人ホーム＞

平成 2 年 7 月に徘徊等の行動障害を伴う認知症高齢者専用の特別養護老人ホームとして開設された。これは、昭和 60 年 12 月大阪市立弘済院検討委員会の“急速な高齢化社会の到来により、特に「重介護を要する認知症高齢者、病院で認知症の症状が改善されても地域に戻れない高齢者」等の認知症高齢者にかかる対策が緊急課題である”との提言を受けて設立されたものである。近年は、認知症介護技術の進歩と普及に伴い、附属病院と医療・介護が一体となって、より対応の難しい認知症のケアモデルの確立を目指して取り組んできている。

＜養護老人ホーム＞

前身は、東成郡生野村（現大阪市生野区）において福祉活動を行っていた「財団法人弘済会」が大正 2 年 5 月に新しく事業を開始した養老部であり、昭和 9 年 4 月大阪府三島郡山田村（現在地）に移転し、救護施設として重要な役割を果たしてきた。昭和 19 年 4 月に弘済会の事業一切を大阪市が継承し、名称を「大阪市立弘済院養老所」と改め、昭和 38 年 8 月老人福祉法の施行に伴い「養護老人ホーム」となり、昭和 41 年 3 月、名称を「老人ホーム」と変更して現在にいたっている。

（3） 弘済院における認知症に関する取り組み

＜附属病院の取り組み＞

i 大阪市指定認知症疾患医療センターとして

平成 20 年、厚生労働省は全国 150 か所を目標として認知症疾患医療センターを設置することを定め、それを受けて大阪市では、平成 21 年 4 月に大阪市立大学医学部附属病院（南エリア 6 区担

当、高齢者人口：212,898人）、ほくとクリニック病院（中央エリア10区担当、高齢者人口：193,286人）、大阪市立弘済院附属病院（北エリア8区担当、高齢者人口177,428人）の3病院を同センターとして指定した。認知症疾患医療センターには、①認知症の鑑別診断、問題行動・身体合併症への対応、②地域の医療機関や介護施設との連携、③普及啓発、相談など情報センターとしての機能が求められ、地域における認知症疾患の保健医療水準の向上を図ることを設置目的としている。さらに平成21年以降は、地域包括支援センターへの連携担当者の配置により、地域包括支援センターとの連携を強化した、連携の拠点としての機能も求められている。

当病院では、平成9年より認知症の専門外来を設け、平成18年には「もの忘れ外来」と名称を改めて専門診療にあたってきた。現在では神経内科と精神科が診療を担当し、常勤医師5名と、週1回の外来応援医師3名が診療に当たっている。平成21年度の外来件数は、のべ9254人で、初診は実人数で635人であった。認知症の診療に必須の神経心理検査は、臨床心理士が毎日実施しているほか、小規模病院であることを活かして、放射線科や中央検査室の協力のもと、MRI等の検査を認知症の鑑別に適した検査方法で比較的迅速に行っている。

入院診療については、附属病院90床のうち40床で神経内科・精神科が認知症の専門的看護を必要とする患者の診療にあたり、認知症の精査、行動障害の治療や合併症治療などを行っている。50床は内科、整形外科を主とした治療病棟となっている。

専門外来開設当初より、患者家族のニーズにそった医療提供に努め、もの忘れ外来受診患者およびその家族を対象として、平成12年以降順次、次のような取り組みを実践してきた。①軽中度アルツハイマー型認知症患者の非薬物治療としてのグループ回想法の実践および研究、②告知した若年発症者を対象とした本人サポートの会「第二木曜の会」の運営、③家族とともに学び支えあう「弘済院家族の会」の運営、④認知症の診断を受けた後の家族の学びの場としての「認知症教室」の運営などである。認知症の鑑別診断の後、患者およびその家族が実際にどのように生活していったらよいのか、誰がいつどのようにそれをマネジメントしていくのか、重大な課題でありながら個々の事情に合わせ対応していくことはなかなか困難なことである。専門医療機関が持つスキルを活用した患者家族支援により、地域での生活支援にスムーズにつないでいくことができるよう模索し、実践を重ねてきているところである。

地域との連携については、定期的な連携担当者の情報交換や、担当エリアでの研修会への参加、講師派遣などを積極的におこなってきている。

ii 大阪市立大学との連携

平成15年に大阪市立大学大学院医学研究科との間に、「大阪市立大学大学院医学研究科と大阪市立弘済院附属病院の高齢者医療に関する連携にかかる連絡協議会」が設立され、大学からの学術的な支援を得て診療・研究活動に取り組んできている。研究活動では、実際の診療に関する統計的な検討や症例検討の他、アルツハイマー病のグループ回想法や前頭側頭型認知症の診療やケアなどを各種学会で発表するなどの成果を上げ、グループ回想法の神経心理学的検討では日本認知症ケア学会で石崎賞を受賞した。

また、連携協議会の主催で、年1回大阪市立大学医学部&大阪市立弘済院ジョイントセミナーを開催し、H22年10月で第8回を迎えた。また同協議会と共催で、年に約4回ほど、弘済院内寿楽館において市民向け公開講座を開催し、そのうち1回は市立大学より講師をお招きして開催してきている（表1）。

平成21年11月15日には、大阪市中心公会堂で大阪市市制120周年記念事業として第7回ジョイントセミナーを開催し「都市・大阪の認知症に挑む」と題して、780名の参加を得た。（図2）

<第2特別養護老人ホームの取り組み>

第2特別養護老人ホームは、全国でも珍しい、歩行可能な行動障害を伴う認知症の人を利用対象として特化した特別養護老人ホームであり、入所者数70名、ショートステイ利用者7名で運営

している。平成 12 年には利用者のうち男性 18.6%、平均年齢は男性 78.1 歳、女性 79.1 歳であったのが、平成 17 年には男性 26.3%、平均年齢は男性 76.3 歳、女性 82.7 歳と徐々に利用者に変化してきていた。その理由として利用者の原因疾患をみると、平成 12 年に 65.7%を占めたアルツハイマー病の利用者割合が、平成 17 年 56%、18 年 48%、19 年 42%、20 年 38%と減少し、アルツハイマー病に代わって、平成 12 年頃には年間 1 人未満の前頭側頭型認知症の利用者が、平成 17 年に 5%、18 年 10%、19 年 17%、20 年 24%と増加してきた。介護保険制度とともにアルツハイマー病を中心とした介護方法は徐々に普及したのに対して、未解明な部分が多く対応困難をきたしやすい前頭側頭型認知症の利用者が専門施設に集中してきたことが考えられた。（※注）

そこで、平成 18 年より前頭側頭型認知症の介護方法を検討する「前頭側頭型認知症研究会」を立ち上げ、外部からの応援も得て、特養と病院の多職種で月 1 回集まり事例検討を重ねてきた。その成果は各種学会等に発表し、日本認知症ケア学会石崎賞を受賞している。また、平成 23 年 2 月に健康福祉局が主催した、大阪市域の専門職育成を目的とした大阪市「認知症」医療・福祉専門職研修は、第 2 特別養護老人ホームでの実践成果を情報発信したものである。



＜各施設間連携による取り組み＞

弘済院の何よりの特徴は、共通の目的を持った複数の施設がともに併設していることである。このことは、経過が長く様々な病状を呈し、様々な専門職が時期により病状により主役を交代しながら関わることを必要とする、認知症という病気を持った人を支援していくために非常に役立つことである。つまり現在の弘済院には、お元気な高齢者からターミナルまで様々な方が受診する病院、比較的軽度な認知症の方が利用する養護老人ホーム、行動障害があり歩行可能な認知症の方専用の第 2 特別養護老人ホーム、身体機能障害の重度な方が多い第 1 特別養護老人ホームが併設されている。専門職としては認知症の様々な時期や状況をそれぞれの職種の立場で学ぶことができ、様々な時期や状況を知る多様な専門職が隣に存在し協力しあうことで、複数の視点から検討を重ねることができ、利用する人に対してより有効な医療・介護を提供することできるのである。

第 2 特別養護老人ホームを中心とした「前頭側頭型認知症研究会」も施設間連携による多職種での協力の 1 例であるが、その他には院内全施設職員を対象とした「認知症を学ぶ会」を開催し、自主的な研修の場を設けている。（表 2）

また、例えば、大阪市中で高齢者虐待の被虐待高齢者の分離保護が必要となり依頼があった時、緊急に複数施設の職員が集まってよりベターな対応を検討し、例えば附属病院受診のうえで施設入所を検討する方法をとるなど、迅速に柔軟な対応ができることも貴重である。

3. 今後の課題

認知症については、①市民啓発、②予防、③相談・支援、④医療、⑤ケア、⑥②～⑤のネットワーク構築、⑦人材育成、以上のすべてに関する質の向上や整備が急務である。特に人材育成については、長い時間のかかるものであり、弘済院での取り組みを大阪市の認知症対策に活用していくことが有効であると考えられる。都市構造の変化を見据えた長期的展望にたち、より発展的な行政のリーダーシップが求められると考える。

（※注）第2特別養護老人ホームでの生活

「見守り」は介護の基本である。施設内に十分な広さがあり介護者との距離を保つことができると利用者は自分の望むままのペースで過ごすことができる。できるだけ手を出しすぎず本人のペースを尊重し距離をおいて見守っている。食事は食べやすくして提供してうながすとゆっくり時間をかけることでほとんどの人が全量摂取し、排泄はスムーズにできているかをチェック表で把握し本人の様子から排泄のサインを読みとりトイレに誘導することでうまくいけばオムツ外しも可能となった。

また入所者の家族たちは在宅での大きな介護負担から解放され心と時間に余裕ができて、何か手助けをしたいと「家族会活動」を始めた。行事への協力、面会時のお世話とともに、認知症の症状が進んでからは家族があきらめていた外食をスタッフの援助で再びチャレンジするなど生活の幅を広げることにとりくんだ。認知症になってもあきらめずに工夫してやりたいことの実現を図り、社会的場面で取り戻すその人らしさを見ることは家族や介護スタッフにとって大きな喜びである。

70＋ショート7の77名が集うデイルームは、その広さを生かす時には有効であるが、日常生活において本人に寄り添い気づきを大事にする実践をおこなうには落ち着かない場所であった。部屋の転用等で小さなデイルームを作り従来型特養ではあるがユニット的ケアを平成15年の試行から引き続き実施している。小さな単位で個別ケアをおこなうと同時に活動性のある人を囲いこむのではなく各ユニットが基地のような役割を持ち廊下を自由に周回することもできている。第2特別養護老人ホームでのこの成果は平成17年に建て替えられた第1特別養護老人ホームにも生かし従来型施設であるが1フロアーを3分割してユニット運営をおこなっている。

これまで「どんなに重たい人も断らない」をモットーに他の施設で拒まれた認知症の人でも入所を試みることに挑戦し、精神病院からの退院ケースもできれば生活の場を再び経験してもらいたいと考えて受け入れてきた。もちろんすべてが成功例ではないが、声のかけ方、落ち着けるようなハードの工夫、かかわりの継続によって少しでも豊かな表情を取り戻すようにスタッフと家族が力をあわせてともにできることを追求し続けている。

（平成13年からはじまった「認知症介護研修」は指導者養成のための研修を東京・仙台・大府でおこなっているが、大府センターに参加してきたスタッフは、今まで自分たちがやってきたことが間違っていないことを再確認できたと述べている）

第2特別養護老人ホームのケアの基本姿勢は、開所以来、ずっと認知症の本人をしっかり見つめることである。行動障害（BPSD）の出現にも「困っているのはご本人」でありその軽減・解決に向けてチームでかかわり行動をみつめケアのあり方を日々さぐる大切だと考え歩んできた。地域からの困ったケースについても同様の対応をおこなっているが、認知症疾患医療センターとなった附属病院の医療提供と関連して依頼が増加傾向にあり、受け入れ、応えることができる体制を整えてゆくことが必要である。

図 2. 第 7 回ジョイントセミナープログラム

～高齢社会を健やかに～市制 120 周年記念事業

第 7 回大阪市立大学医学部&大阪市立弘済院 ジョイントセミナー

「都市・大阪の認知症に挑む」

司会：馬場章夫

開会のあいさつ：大阪市立大学大学院医学研究科 研究科長 西澤良記

市長あいさつ

第 I 部基調講演

座長：大阪市立大学大学院医学研究科 脳神経科学教授 森 啓

大阪市立大学大学院医学研究科 脳神経外科学教授 大畑 建治

■「アルツハイマー病の今日的課題の整理と展望」

日本認知症学会理事長 井原 康夫

(同志社大学教授・東京大学名誉教授)

■「わが国における認知症施策と大阪市への期待」

厚生労働省老健局高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室

認知症対策専門官 武田 章敬

第 II 部シンポジウム

座長：大阪市立大学大学院医学研究科 神経精神医学教授 切池 信夫

大阪市立大学大学院医学研究科 老年内科学教授 三木 隆己

■「認知症の医療による経済効果」

社団法人地域医療振興協会 市立伊東病院臨床研修センター長 八森 敦

■「地域におけるネットワークの重要性」

大阪府医師会理事 小菓 裕成

■「大阪市の認知症施策について」

大阪市健康福祉局高齢者施策部長 山口浩明

■ 市民の立場から

ラジオパーソナリティー 馬場章夫

■ 専門医の立場から

大阪市立弘済院附属病院神経内科部長 中西亜紀

■ 介護職員の立場から

大阪市立弘済院第 1 特別養護老人ホーム 長谷川美智子

閉会のあいさつ 大阪市立弘済院附属病院病院長 堀井明範

表 1

高齢者医療公開講座実施状況

開催回	日 時	テ ー マ	担当診療科	講 師	参加人数	累計
第1回	平成15年 1月17日(金)	大腿骨頸部骨折について	整形外科	大川 得太郎	50	50
第2回	平成15年 2月19日(水)	痴呆になれどなるの	神経科精神科	中西 亜紀	121	171
第3回	平成15年 3月14日(金)	お年寄りのおもらし	泌尿器科	河野 学	80	251
第4回	平成15年 5月20日(火)	胸やけー高齢者に多くみられる逆流性食道炎とは	内科	東田 庸	53	304
第5回	平成15年 7月29日(火)	痴呆をきたす病気	神経科内科	川端 幸一	65	369
第6回	平成15年 9月19日(金)	口から食べられない人の栄養管理法-胃ろう造設	外科	宋 博	47	416
第1回 ジョイント セミナー	平成15年11月 3日(祝) (市大医学部との共催)	◆老いを生きる	市大大学院 神経精神医学	切池 信夫 教授	259	675
		◆骨粗鬆症の最新情報	弘済院附属病院	揖場 和子		
		◆大阪市の高齢者福祉の現状	健福局高齢福祉課	山田 俊平 課長		
第7回	平成15年12月 4日(木)	高齢者と不眠症-睡眠も老化します-	神経科精神科	河原田 洋次郎	79	754
第8回	平成16年 1月29日(木)	お年寄りに分りやすい骨粗鬆症	大阪市立大学医学部老年内科	三木 隆己 助教授	77	831
第9回	平成16年 3月18日(木)	沈黙の臓器 -肝臓- 肝臓の病気について	弘済院附属病院院長	丸毛 俊明	75	906
第10回	平成16年 5月19日(水)	糖尿病と食事療法について	弘済院附属病院副院長 管理栄養士	魚井 孝悦 山本 典子	60	966
第11回	平成16年 7月30日(金)	骨粗鬆症の運動療法	整形外科	大川 得太郎	58	1,024
第2回 ジョイント セミナー	平成16年 9月11日(土) (市大医学部との共催)	◆もの忘れが気になるあなたに(臨床の立場から)	市大大学院 老年内科学	三木隆己 助教授	254	1,278
		◆アルツハイマー病と関る実験室から(基礎研究の立場から)	脳神経科学	森 啓 教授		
		◆もの忘れではすまなくなったとき(医療・介護の現場から)	弘済院附属病院	中西 亜紀		
第12回	平成16年11月25日(金)	最近の肺結核(高齢者の肺結核)について	弘済院附属病院院長	後藤 武	59	1,337
第13回	平成17年 2月4日(金)	高齢者のうつ病について	市大大学院 神経精神医学	切池信夫 教授	91	1,428
第14回	平成17年 5月27日(金)	高齢者のリハビリテーション	リハビリテーション科 理学療法士 理学療法士	平田 繁 宮地 敬 奥井 良子	72	1,500
第15回	平成17年 7月26日(火)	誤嚥性肺炎	内科 歯科 歯科衛生士	東田 庸 吉村 博孝 岸川 由美子	51	1,551
第3回 ジョイント セミナー	平成17年10月2日(日) (市大医学部との共催)	◆アルツハイマー病の病態解明から治療まで	日本痴呆学会理事長、 東京大学大学院医学系研究科	井原 康夫	750	2,301
		◆認知症医療の現場から	弘済院附属病院	中西 亜紀		
		◆家族の立場から		弘済院家族の会		
		◆知って安心、患者を守る法律の味方:成年後見制度など	大阪後見支援センター	大國 美智子		
		◆認知症の治療と予防について	大阪市立大学大学院医学研究科	林 朝茂		
第16回	平成17年12月7日(水)	膝のお話～膝の病気とその治療法～	弘済院附属病院副院長	河田 弘	92	2,393
第17回	平成18年 1月24日(火)	骨粗しょう症とスポーツ	大阪市立大学大学院 医学研究科 リウマチ外科学助教授	小池 達也	55	2,448
第18回	平成18年 5月23日(火)	めざそう“健やか長寿” —生活習慣病・寝たきり早期予防—		田中 史朗	60	2,508
第19回	平成18年 7月19日(水)	認知症に取り組む ①はじまりが“もの忘れ”とは限りません ②“こんな時どうする?”	弘済院附属病院 神経科精神科副部長 弘済院第1特養	中西 亜紀 北沢 啓子ほか	106	2,614
第4回 ジョイント セミナー	平成18年10月14日(土) (市大医学部との共催)	◆認知症の行動障害	大阪市立大学 医学研究科 神経精神医学講師	橋本 博史	104	2,718
		◆高齢者の転倒・骨折の予防と対策	弘済院附属病院副院長	河田 弘		
第20回	平成18年12月6日(水)	“骨粗しょう症”治療を中心に —あなたのお薬は、効いていますか?—	弘済院附属病院 内科医長	齊藤 真一	57	2,775
第21回	平成19年2月7日(水)	“動脈硬化”の原因と予防 —心筋梗塞・脳梗塞・認知症などにならないために—	大阪市立大学大学院医学研究科 病理病態学教授	上田 真喜子	88	2,863
第22回	平成19年5月30日(水)	認知症と車の運転	神経科精神科医長	河原田 洋次郎	37	2,900
第23回	平成19年7月18日(水)	糖尿病	内科医長	宮本 雅史	63	2,963
第5回 ジョイント セミナー	平成19年10月20日(土) (市大医学部との共催)	◆認知症「あなたの“もの忘れ”は大丈夫」	神経科精神科部長	中西 亜紀	285	3,248
		◆心筋梗塞と脳梗塞の予防	大阪市立大学大学院医学研究科 病理病態学教授	上田 真喜子		
第24回	平成19年11月27日(火)	骨粗鬆症	副院長	揖場 和子	57	3,305
第25回	平成20年1月31日(木)	～意外と身近な病気とその対策～ “慢性腎臓病って何?”	大阪市立大学大学院医学研究科 医学研究科長	西沢 良記	72	3,377
第26回	平成20年5月28日(水)	認知症に取り組む② レビー小体型認知症～その診断・治療と看護～	弘済院附属病院神経科精神科部長	中西 亜紀	108	3,485
第27回	平成20年7月17日(木)	健やかな腰をつくろう! 「中高年の腰痛症への治療と対策」	弘済院附属病院副院長	河田 弘	93	3,578
第6回 ジョイント セミナー	平成20年10月18日(土) (市大医学部との共催)	◆もの忘れは認知症のはじまり? ～その最新の診断と治療について～	大阪市立大学大学院医学研究科 老年内科・神経内科講師	嶋田 裕之	280	3,858
		◆認知症「排尿に関する問題を考える」	弘済院附属病院病院長	堀井 明範		
第28回	平成20年12月3日(水)	骨太家族は健康家族 —骨粗鬆症は生活習慣病かも?—	弘済院附属病院内科医長 弘済院附属病院管理栄養士	齊藤 真一 北川 富貴代	52	3,910

第29回	平成21年2月3日(火)	“認知症の真犯人発見”	大阪市立大学大学院医学研究科 老年医学大講座脳神経科学	森 啓	96	4,006
第30回	平成21年7月22日(水)	～認知症のチーム医療～ 泌尿器科における関わり合いについて	弘済院附属病院病院長	堀井 明範	57	4,063
第7回 ジョイント セミナー	平成21年11月15日(日) (市大医学部との共催)	「都市・大阪の認知症に挑む」			780	4,843
		開会の挨拶	大阪市立大学大学院医学研究科 医学研究科長	西澤 良記		
		【第一部 基調講演】				
		座長	大阪市立大学大学院医学研究科 脳神経科学教授	森 啓		
		座長	大阪市立大学大学院医学研究科 脳神経外科学教授	大畑 建治		
		◆アルツハイマー病の今日的課題の整理と展望	日本認知症学会理事長・同志社大 学教授・東京大学名誉教授	井原 康夫		
		◆わが国における認知症施策と大阪市への期待	厚生労働省認知症・虐待防止対策 推進室 認知症対策専門官	武田 章敬		
		【第二部 シンポジウム】				
		「認知症になっても安心して暮らせる“大阪”へ」				
		座長	大阪市立大学大学院医学研究科 神経精神医学教授	切池 信夫		
		座長	大阪市立大学大学院医学研究科 老年内科学教授	三木 隆巳		
		◆地域におけるネットワークの重要性	大阪府医師会理事	小菓 裕成		
		◆認知症の医療による経済効果	社団法人地域医療振協会市立伊 東市民病院臨床研修センター長	八森 淳		
		◆大阪市の認知症施策について	健康福祉局 高齢者施策部長	山口 浩明		
		・市民の立場から	ラジオパーソナリティ	馬場 章夫		
		・専門医の立場から	神経内科部長兼精神神経科部長	中西 亜紀		
		・介護職員の立場から	弘済院第1特別養護老人ホーム介 護士長	長谷川美智子		
		総合司会	ラジオパーソナリティ	馬場 章夫		
		閉会の挨拶	弘済院附属病院病院長	堀井 明範		
第31回	平成22年1月20日(水)	高齢者の腰痛 ～狭窄症と骨粗鬆症～	大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科教授	中村 博亮	93	4,936
第32回	平成22年3月2日(火)	認知症に取り組む③			97	5,033
		1.増え続ける認知症!! その対策は? ～地域における新たな取り組み～	弘済院附属病院神経内科副部長	正木 秀樹		
第33回	平成22年5月19日(水)	2.私と認知症ケア	弘済院附属病院総合相談室室長	北沢 啓子	93	5,126
		ともに学ぼう認知症のこと	弘済院附属病院神経内科部長	中西 亜紀		
第34回	平成22年7月21日(水)	「意欲の低下ともの忘れ」	弘済院附属病院看護師	中村 里江	83	5,209
第8回 ジョイント セミナー	平成22年10月23日(土) (市大医学部との共催)	「膝の痛みの治療法」 ～いつまでも健やかに歩こう～	弘済院附属病院病院長	河田 弘	330	5,539
		「認知症の診断と治療」 ～最近の進歩について～	大阪市立大学大学院医学研究科 老年内科・神経内科講師	嶋田 裕之		
		「認知症と車の運転」 ～運転しても大丈夫～	弘済院附属病院 精神神経科医長	河原田 洋次郎		
		「お伝えしたいこと」 ～介護家族の立場から～	弘済院家族の会	和崎 光子		
第35回	平成22年12月3日(金)	生活習慣病と認知症	弘済院附属病院 内科副部長	宮本 雅史	66	5,605
第36回	平成23年2月2日(水)	「悩んでいるのはあなただけではありません」 ～女性の頻尿、尿失禁、子宮脱～	大阪市立大学大学院医学研究科 女性病態医学教授	石河 修	84	5,689

表2 認知症を学ぶ会 開催内容

18年度							
	月・日・曜日	時間		テーマ	講師	氏名	参加人数
第1回 基礎①	11月8日(水)	18:30 ～19:30	1時間	認知症とは？ 医学的基礎知識	医師	金本 元勝	61名
第1回 基礎②	11月15日(水)	18:30 ～19:30	1時間	認知症の対応 ～基本的な接し方～	第1特養 ケアマネ	橋爪 康夫	68名
第1回 基礎③	11月22日(水)	18:30 ～19:30	1時間	認知症の行動障害への対応	医師 第1特養 ケアマネ	河原田洋次郎 長谷川美智子	64名
第1回 基礎④	11月29日(水)	18:30 ～19:30	1時間	認知症への対応 認知症の人の生活支援で大切なこと ～本人の視点からケアを考える～	第1特養 作業療法士	坂尾 恭介	54名
第1回 応用	12月27日(水)	18:30 ～19:30	1時間	アルツハイマー病について	医師	中西 亜紀	47名
第2回 応用	1月17日(水)	18:30 ～19:45	1時間15分	高齢者虐待について	きづがわ共同法律 事務所弁護士	青木 佳史	63名
第2回 基礎①	2月7日(水)	18:30 ～19:30	1時間	認知症とは？ 医学的基礎知識	医師	河原田洋次郎	44名
第2回 基礎②	2月14日(水)	18:30 ～19:30	1時間	認知症の対応 ～基本的な接し方～	第1特養 ケアマネ	橋爪 康夫	37名
第2回 基礎③	2月21日(水)	18:30 ～19:30	1時間	認知症の行動障害への対応	医師 看護師 看護師	村上雄一郎 中村 里江 宇江 末子	45名
第2回 基礎④	2月28日(水)	18:30 ～19:30	1時間	認知症への対応～アクティビティ～	第1特養 作業療法士 第1特養 第1特養	坂尾 恭介 景山 美紀 吹田 栄	39名
第3回 応用	3月14日(水)	18:30 ～19:30	1時間	認知症高齢者とのコミュニケーション	看護師	中村 里江	39名
19年度							
	月・日・曜日	時間		テーマ	講師	氏名	参加人数
基礎編 第1回①	6月7日(木)	18:00 ～19:00	1時間	認知症の医学的基礎知識	医師	中西 亜紀	41名
基礎編 第1回②	6月14日(木)	18:00 ～19:00	1時間	認知症の対応(1) ～基礎的な接し方～	第1特養 ケアマネ	橋爪 康夫	31名
基礎編 第1回③	6月21日(木)	18:00 ～19:00	1時間	認知症のBPSDへの対応	医師 看護師	河原田洋次郎 中村 里江	47名
基礎編 第1回④	6月28日(木)	18:00 ～19:00	1時間	認知症の人の生活支援 ～持てる力を活かすには～	第1特養 作業療法士	坂尾 恭介	29名
応用編 第1回	7月12日(木)	18:10 ～19:00	50分	ご家族の想い ～認知症の診断から施設での日々～	弘済院家族の会	和崎 光子	42名
応用編 第2回	9月27日(木)	18:00 ～19:30	1時間30分	だれでもわかる成年後見制度	弁護士	石橋 志乃	62名
応用編 第3回	10月25日(木)	18:30 ～19:30	1時間	弘済院職員による認知症ケア 学会での口演発表の報告(3題) ①「前頭側頭型認知症(FTD)の利用者 に対するケアの試み」 ②「ショートステイ利用開始時の施設医 務室の役割」 ③「ブラウスに秘められた、かけがえの ない想い」	第2特養 第2特養 医務室 第1特養 5階		

20年度

	月・日・曜日	時間		テーマ	講 師	氏 名	参加人数
プレ基礎編	7月7日(月)	17:00 ～18:20	1時間20分	認知症について	医 師 第1特養 ケアマネ	中西 亜紀 長谷川 美智子	31名
応用編 第1回	8月21日(木)	18:30 ～19:30	1時間	認知症と車の運転	医 師	河原田 洋次郎	21名
応用編 第2回	9月29日(月)	18:30 ～19:30	1時間	レビー小体型認知症～その診断・治療と看護～	医 師 看護師	中西 亜紀 中村 里江	25名
応用編 第3回	10月16日(木)	18:30 ～19:30	1時間	認知症ケア学会報告 絶叫の日々から生き返った私 認知症ケア学会報告 FTD利用者に対するケアの試み	第1特養 第1特養 第2特養 第2特養	落合 幸男 吹田 栄 白山 加奈子 松本 陽子	50名
基礎編 第1回	11月6日(木)	18:30 ～19:30	1時間	認知症の医療	医 師	金本 元勝	31名
基礎編 第2回	11月13日(木)	18:30 ～19:30	1時間	認知症の対応(1) 基本的な接し方	総括主任	橋爪 康夫	36名
基礎編 第3回	11月20日(木)	18:30 ～19:30	1時間	認知症のBPSDの対応	医 師 看護師	秋山 尚徳 中村 里江	33名
基礎編 第4回	11月27日(木)	18:30 ～19:30	1時間	認知症の対応 生活支援アクティビティ	第1特養 作業療法士 第2特養 作業療法士	坂尾 恭介 本田 香織	32名
応用編 第4回	12月18日(木)	18:30 ～19:30	1時間	認知症「排尿に関する問題を考える」	医 師	堀井 明範	27名
応用編 第5回	1月23日(金)	17:45 ～18:45	1時間	想い出話の力の不思議	医 師	中西 亜紀 (大阪市大 篠田准 教授代理)	31名
応用編 第6回	3月26日(金)	18:00 ～19:00	1時間	前頭側頭型認知症(FTD)について	医 師	河原田 洋次郎	55名

21年度

	月・日・曜日	時間		テーマ	講 師	氏 名	参加人数
基礎編 認知症サポーター養成講座	7月16日(木)	17:00 ～18:30	1時間30分	認知症について	医 師 第1特養 ケアマネ	河原田 洋次郎 長谷川 美智子	40名
院内学習会	2月8日(月)	17:40 ～19:10	1時間30分	認知症高齢者を取り巻く環境～小さな気づきの積み重ねから～ 硬膜下水腫を併発した前頭側頭型認知症の一例 「頭の体操」クラブ 意味性認知症の利用者への言語によるコミュニケーションの試み・第1報 ～飯缶運びの仕事を通して～ 前頭側頭型認知症の利用者へのケアの試み・第3報 ～マンガで取り戻した本当の私～ 中等度脳血管性認知症高齢者の“できる力”を引き出す”編み物”を用いた看護介入	第1特養 医 師 老人ホーム支援員 老人ホーム支援員 老人ホーム支援員 言語聴覚士 第2特養 看護師	今池 知広 岡本 洋昭 福山 淳 田所満里子 吉田 恵美 関岡 直江 西岡 要 中村 里江	65名

22年度

	月・日・曜日	時間		テーマ	講 師	氏 名	参加人数
応用編第1回	7月1日(木)	18:30 ～19:30	1時間	意欲の低下ともの忘れ	医 師 看護師	中西 亜紀 中村 里江	28名
応用編第2回	10月14日(木)	18:30 ～19:45	1時間15分	在宅からショート、入所まで	研修情報センター スーパーバイザー	沖田 裕子	35名